

平成30年7月豪雨時の一庫ダムの防災操作について



H30.7.7撮影

平成30年9月25日

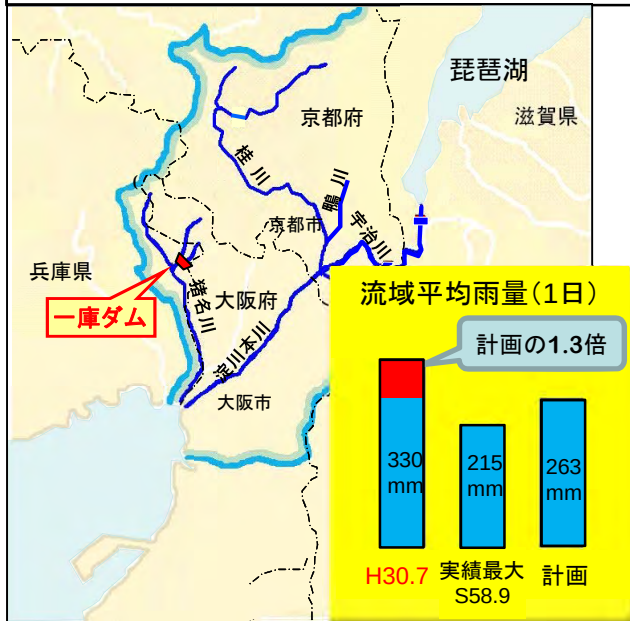
独立行政法人
水資源機構





ひとくろ 平成 30 年 7 月豪雨における一庫ダムの洪水調節効果 淀川水系猪名川(兵庫県) [速報版]

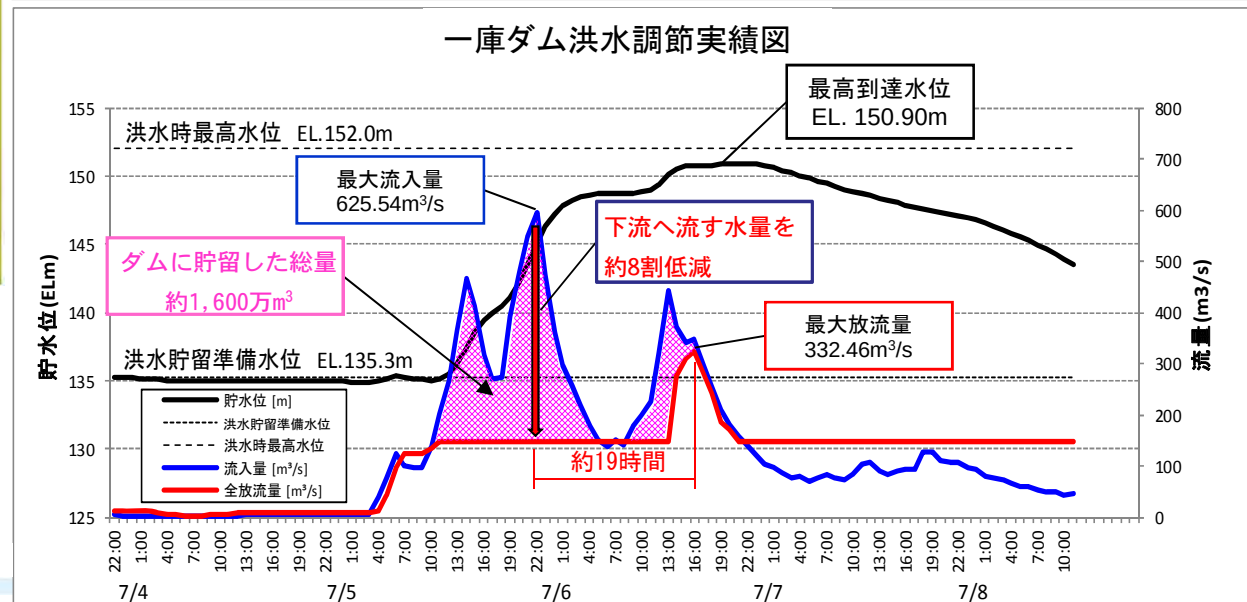
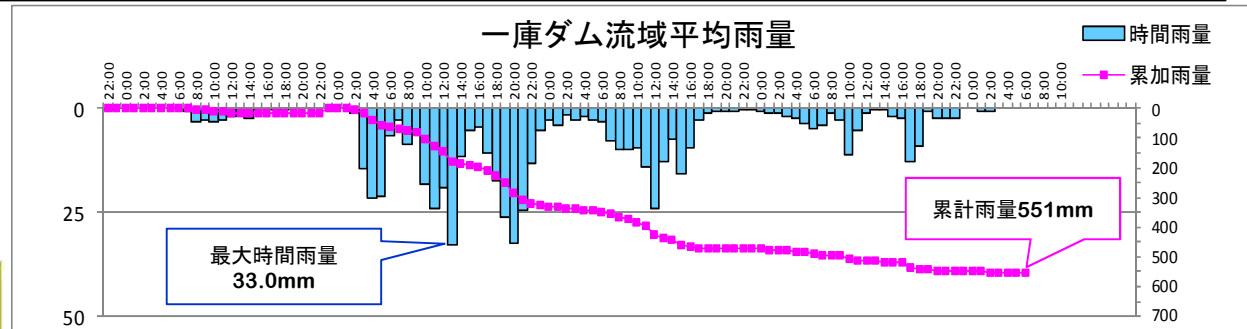
- 活発な梅雨前線の影響により、まとまった降雨が断続的に発生。**一庫ダム流域における総雨量は551mm**、最大日雨量は330mm(7月5日)を記録し、ともに観測開始以来最大。特に最大日雨量は、ダムの計画雨量263mmを超える豪雨。
- 洪水時最高水位に迫る水位まで貯水池を活用して洪水調節を行い、**総量約1,600万 m^3 の洪水を貯留**。ダムへの最大流入時に下流へ流す水量を**約8割低減**。
- これにより、**ピーク流量の発生時刻を約19時間遅らせて避難時間等を確保**するとともに、**ダム下流河川の流量を低減させ浸水被害を軽減**。



洪水貯留開始前の貯水池
(7月2日10時頃)



洪水時最高水位に近づく貯水池
(7月6日 17時頃)



ひとくら 平成 30 年 7 月豪雨における一庫ダムの洪水調節効果 淀川水系猪名川(兵庫県) [速報版]

■ 淀川水系猪名川の一庫ダム流域では、活発な梅雨前線の停滞により記録的な降雨が発生し、降り始めからの総雨量は550.9mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒630立方メートルを記録しましたが、防災操作により、流入量の約76%(毎秒481立法メートル)を低減させ放流することにより、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

■ もし、**ダムが無かった場合には、多田院地点の水位は堤防高の8.26mより上昇していたと推定**され、これにより洪水は堤防から越水し、浸水被害が発生したものと想定されます。

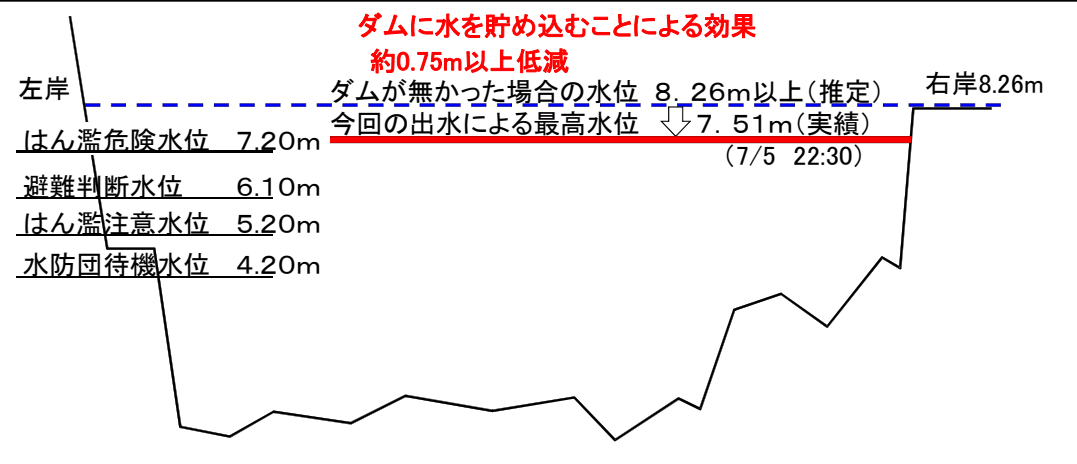
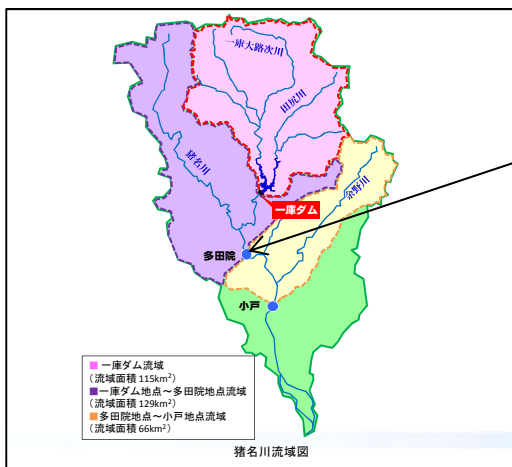


洪水貯留開始前の貯水池の状況
(7月2日10時頃 EL.135.84m)



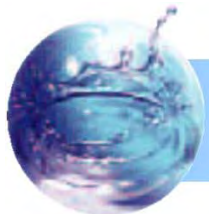
洪水時最高水位に近づく貯水池の状況
(7月6日17時頃 EL.150.81m(上昇中))

多田院地点での水位低減効果



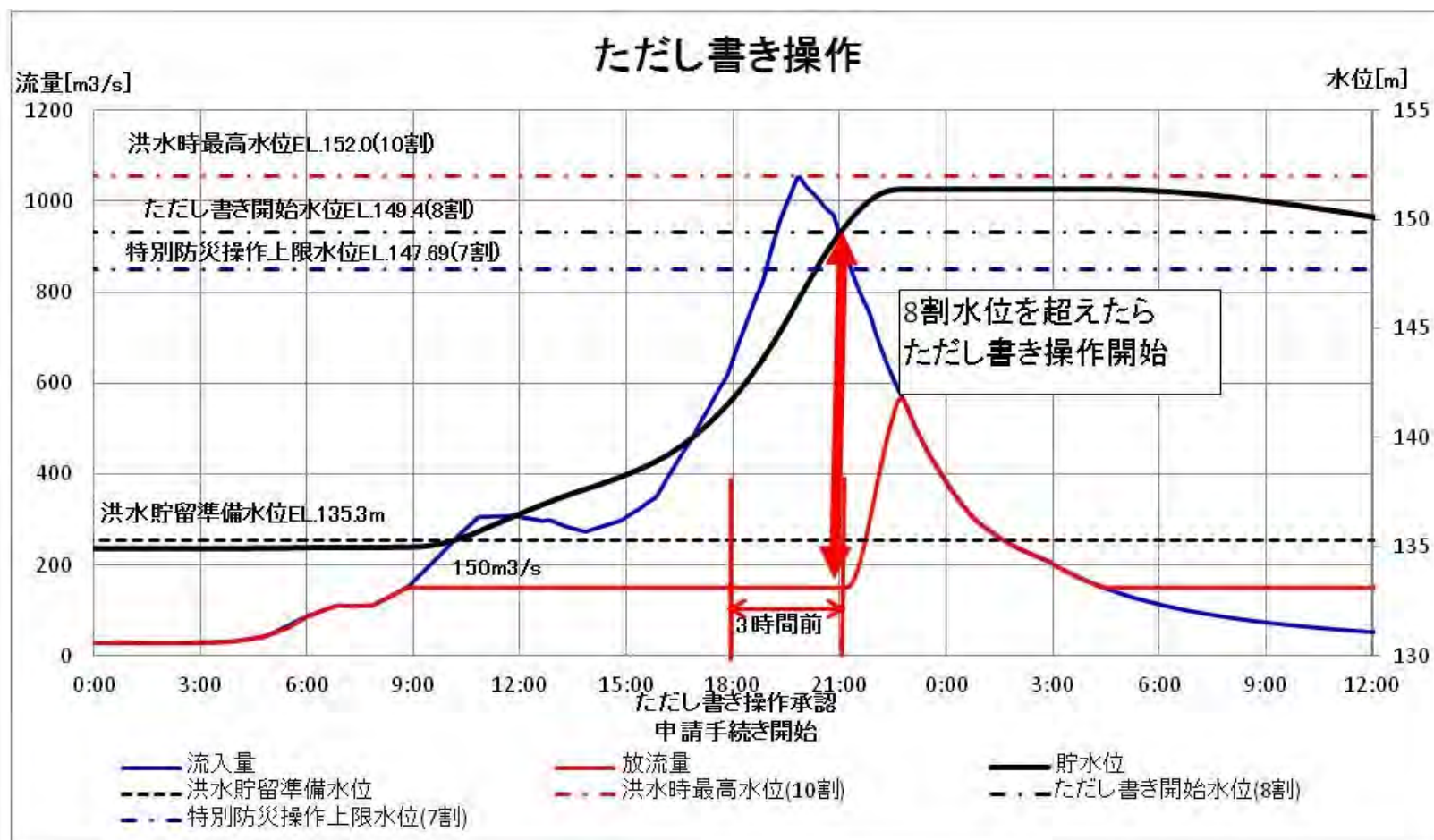
※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。



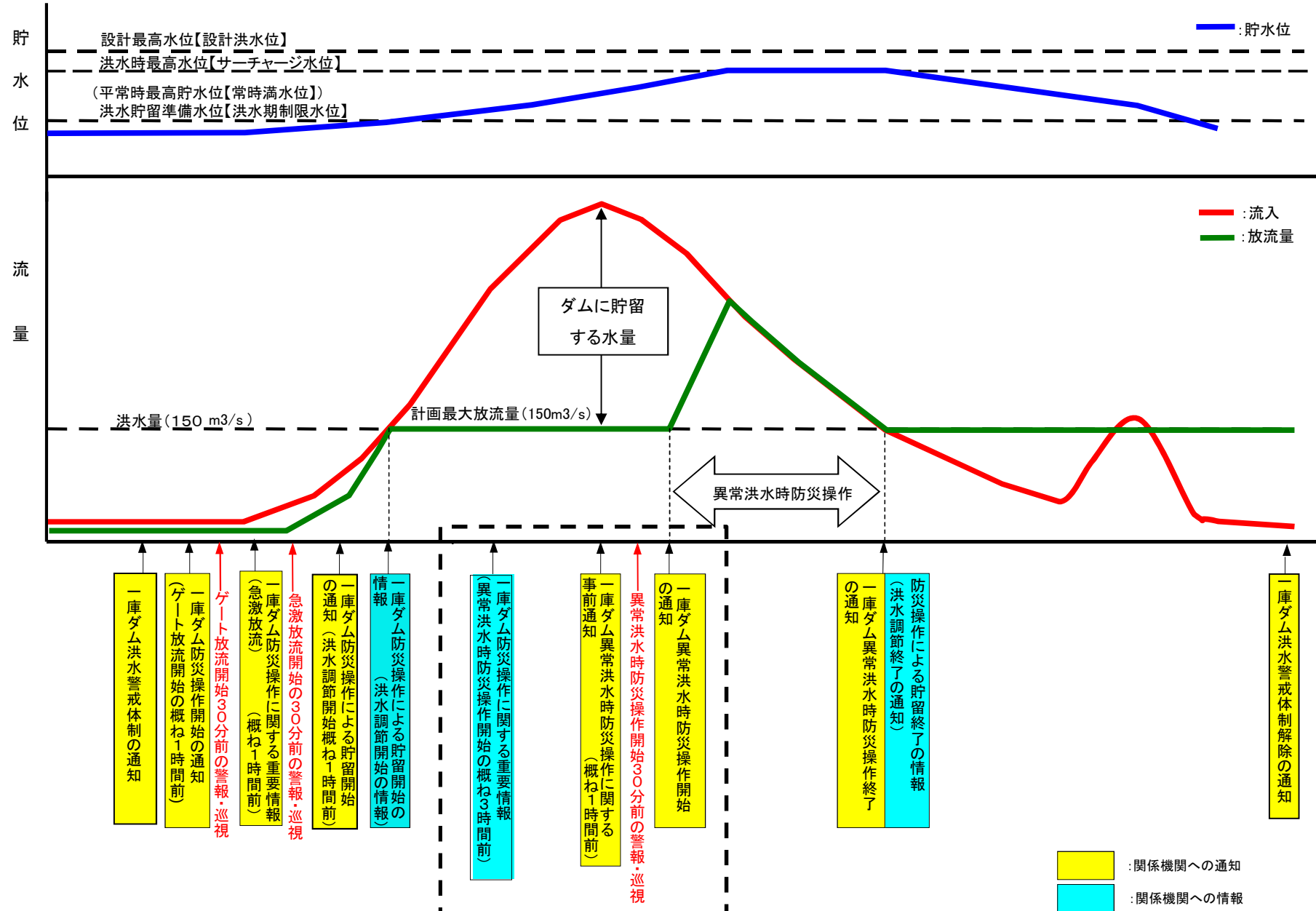


参考：異常洪水時防災操作（ただし書き操作）

一庫ダムただし書き操作要領に基づく操作で、**通常の操作では洪水時最高水位を超えると予測された場合**には、所定の承認を得たのち、**ただし書き操作開始水位149.40m**（洪水調節容量の8割）から**放流量を流入量と等しくなるまで増加させていく**操作。



参考：一庫ダムにおける通知・情報提供の実施時期



※「急激な河川水位上昇の事前通知」は、
放流の原則を超えて放流量を増加させる場合に実施する。